

高等学校体育の指導内容教材の精選

— 特に指導内容の精選の必要性について —

東京都立南高等学校教諭 重 田 一

研 究 者

都立南高等学校 重 田 一	都立南高等学校 小笠原 将 幸
〃 千歳高等学校 村 木 良 二	〃 戸山高等学校 中 島 光 広
〃 練馬高等学校 板 井 哲 夫	麻布高等学校 近 藤 昭 雄

研 究 の 目 的

現行の高等学校学習指導要領（保健体育科）の指導内容は、領域が広く、種目数が多い。それにもかかわらず領域運動種目に配当された授業時数は少ない。このことから、学校では指導上の困難な問題が数多く現れてきている。この実情に堪がみ、最近、指導内容を精選し、高等学校の現状にふさわしい指導計画を設定し、より一層の指導効果をあげる必要があると痛感されるに至った。従来、指導要領は学校の現場の実態に即応されていないことが多いという訴えが、現場教師から出されている。今回はその実態の一部を、客観的データをもとにしてとらえ、将来の指導要領改訂のための資料とすることを目的として本研究を実施した。

この研究は、指導内容の精選の必要性があるかないかということに、最大の目標をおいた。また具体的な目標は次の通りである。

- (1) どのような体育環境のもとで、どのような教材が指導されているか、という実態の把握。
- (2) 教材選択上の問題点の把握。
- (3) 選択された教材がどのように指導されてい

るかの実態把握。

- (4) その他。

結 果 と 考 察

(1) 体育環境と指導内容の精選について

ア. 生徒数平均 男子 711名、女子 617名、計 1,328名、学級数平均24の実態から、1時限に2～4講座の授業実施となると考えられる。

イ. 体育指導者については、1校当り男子3.5女子1.0、計4.5人というのは少ないと考えられる。特技は、全体的にはバランスがとれているが、各学校毎では、相当のアンバランスのようである。

ウ. コートについては、特に球技コートが少ないことが認められる。生徒数に比べて、場所や施設が貧弱な学校が多い。これでは集団技能の指導に支障があると考えられる。体育の施設が教材の選択・実施を決定する場合、重要な条件となり、施設の活用のしかた、創意工夫が必要であるが、学習指導要領に示されている教材の選択に関する条件を考えた場合、施設、場所、環境等が年間の教材を決定する要因となるのでありと考えられる。

(2) 教材精選の問題点について

ア. 現行の学習指導要領に示されている教材を精選することの是非について

- ① 教材の精選が必要である。……92.3%
- ② 教材の精選は必要でない。…… 0.0%
- ③ わからない。…… 7.7%

以上の結果から教材の精選の必要を訴えている現場教師が大多数であることが判明した。

イ. 教材精選がなぜ必要なのかについて

- ① 施設の不備から 79.6%
- ② 用具の不足から 36.0%
- ③ 授業時数の不足から 56.4%
- ④ 指導能力の点から 20.6%
- ⑤ 生徒の学習意欲の点から 15.4%
- ⑥ 心身の健全な発達をねらうため 23.1%
- ⑦ 運動技能を高める点から 30.8%
- ⑧ 社会性を養う点から 12.8%
- ⑨ 自校独自の指導目標の点から 10.3%

以上の結果から、教材精選がなぜ必要なのかの理由として、次のような事実が認められた。すなわち、30%以上のものについてその理由をあげてみると、次の通りである。

- ① 施設の不備（約8割）
- ② 授業時数不足（約6割）
- ③ 用具不足（約4割）
- ④ 運動技能を高めるため（約3割）

①の場合は、各校に通りの施設が、名目上あるにはあるが、同時に使用しなければならないような場合に、不足を痛切に感じているものと考えられる。

②の場合は、指導要領で示されている学習内容を指導するのに必要な時間数の不足を訴えているものと考えられる。すなわち、与えられている総時間数の中で、実際に選択して指導しなければならない教材数が多いのであるとも考えられる。

③の用具不足については、生徒数に対する体育

の予算が足りないからであると考えられる。

④の場合は、授業時数の不足の場合と関連があらうと考えられる。すなわち、学習内容に示されている運動技能をより一層高めるためには、教材数を減らし、一つの教材に配当する時間数をさらに増加する必要があると考えられるからである。

なお、約1割強程度ではあるが、⑨自校独自の指導目標の点から教材の精選が必要であるとしている学校があるのは興味深い。これは現行指導要領に対し、批判を加えて、積極的に精選して指導したいと感じているものである。また逆に独断的な指導、或は独創的な指導をしたいと感じているものもあると考えられる。さらに、私立学校では独特の教育目標があり、その目標との関連から精選を必要と感じているとも考えられる。

ウ. 現在、どのような教材を指導しているかの実態について

① 男子の場合

5割以上の学校が指導している教材は次の通りである。

◎徒手体操、懸垂運動 ◎跳躍運動 ◎転回運動 ◎走の運動、跳の運動、投の運動、柔道 ◎バスケットボール、ハンドボール ◎バレーボール ◎サッカー ◎理論

（◎印8教材は9割以上の学校で指導されているものである）

② 女子の場合

5割以上の学校が指導している教材は次の通りである。

◎徒手体操 ◎跳躍運動 ◎転回運動、平均運動 ◎走の運動 ◎跳の運動、投の運動 ◎バスケットボール、ハンドボール ◎バレーボール、卓球、ソフトボール、フォークダンス ◎舞踊創作 ◎理論

（◎印9教材は9割以上の学校で指導されているもの